| 教材教具名　　カラー版画 | 教科（図工・美術） | |
|---|---|---|

教材教具写真

　できるだけ平面的な図案で、シンプルに図案化された物、左右の形が違う物の方が、図案その物に興味関心が高い生徒には適していて、ねらいにせまりやすく、後日難易度を操作しやすいようでした。

地と字の区別がつきにくい実態の場合は、版そのものを切り抜いておく事も効果的です。パーツを切り分けておくと、はみ出してしまうことに指導者が気を取られることなく、授業のねらいに焦点をあてる指導ができます。この段階の生徒には、左右対称の図案の方が作品の刷り上がり時に（反転します）も受け入れやすいようです。

作りかけですが、張りこむ場所についての意識を高めるため、視覚的援助として「色付きのり」、「マジック」等で次に張りこむ場所について示してあります。詰めて張りこむのは難しい課題のようです。

　隙間が空いた状態のままだと、病気の犬のようになってしまい、ちょっと笑えます

「水疱瘡の犬」という題名になってしまいますね。本人も次にどうしたらいいのかよけいに解らなくなってしまいます。あくまでも、今何をしているのか、何を作っているのかが、途切れないようにした状態で、刷り上げまで持って行けることが重要で、作品の仕上がりを大げさに重要視することは、本当の意味で次ぎにつながっていきにくいものと考えます　。

→

はじめに図案を見て色を塗ってみる。
自分で視写し、図案を描く。
転写シートを、張りこむと、版ができあがります

教材教具の概略（ねらいと使い方）　※ 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

1　ねらい　　・基本的な版画の技法について知り、繰り返して刷り上げる楽しさを経験させる。
　　・技法の楽しさについて知る。

2　発達段階

刷り上がりの色の鮮やかさに気づく事ができる。

（手指を使っての制作よりも、刷り上がりの結果のみを期待してみたり、刷り上がりを注視することができる）

版画技法をおおまかに理解し、効果を予測しながら図案を描き、版作り、刷り上げまでを見通しを持って行える。

使用可能な発達段階は広いですが、どこに焦点を絞るかで、授業での取り組みが違ってくるかと思われます。

3　使い方

図案は解りやすく、シンプルな題材を選び、個別課題の手指等の難易度にすぐに適応させることができる形にしておくこが良いかと思います。2色使いより、1色でも可能な図案であること、目鼻については、別のパーツを準備しておいて、最後にということも可能です。図案は常に複数準備しますが、児童生徒の好みや、作りやすさをまずは優先し、制作行程にかかわる時間でどの時間を、より楽しみにしているかを把握した上での、図案を提供する事が重要です。大きさも1度に視界に収まる大きさに限定

児童生徒の反応や教材の評価　使ってみての感想・改良発展のアイデア等（次に利用する方のために）

　版画なんて、ちょっと難しいから・・・確かにそうなのですが、　難しい部分はお手軽に飛び越え、「刷る」ということのサプライズをしっかりと楽しむ！作品主義にならないようにする！繰り返して行う。手順はシンプルにし、版制作後、刷り作業では、動線をはっきりとさせる。授業の流れはほとんどいつも同じにしておく、これもポイントかもしれません。反省、改良点は多々ありますが、アイロン高温40秒をタイマーで示すと、発色効果がザンと違いました。

　前年度に、非常に似た内容が含まれる、水転写のカラー版画をしていることもあり、手順をほとんど変えることがない状態で手指の課題の難易度を上げ、意図的に作ることに対するねらいをより絞りこむ授業を行うにあたっては、日常的にも、個々の生徒の苦手感を緩和するための指導が不可欠で、長い取り組み期間がかかっています。